

一次の文章を読んで後の問一～問十二に答えなさい。 ※設問の都合上、段落番号を付しています。

- 【一】 家庭と学校という場所は、いのちのやりとりというこの大事なものを深く体験するためにあるはずだった。家庭や学校で体験されるべきとても大事なこと、それについても少し考えてみよう。
- 【二】 学校について友人と話したとき、彼がおもしろい問いをぶつけてきた。幼稚園じやお歌とお遊戯ばかりだったのに、どうして学校に上がるとお歌とお遊戯が授業から外されるんだろうというのだ。

【 中略 】

- 【三】 幼稚園では、いっしょに歌い、いっしょにお遊戯をするだけでなく、いっしょにおやつやお弁当も食べる。他人の身体に起こっていることを生き生きと感ずる練習だ。①そういう作業がなぜ学校では^aゲイシされるのか、不思議なかんじがする。ここで他者への想像力は、幸福の感情と深くむすびついている。【ア】

- 【四】 生きる理由がどうしても見当たらなくなったときに、じぶんが生きるにあたいる者であることをじぶんに納得させるのは、思いの外むずかしい。そのとき、死への恐れは働いていても、生きるべきだという倫理^{りんり}は働かない。生きるということが楽しいものであることの経験、そういう②人生への肯定が底にないと、死なないでいることをじぶんでは肯定できないものだ。お歌とお遊戯はその楽しさを体験するためにあったはずだ。永井均は最近の^bチヨサクのなかでこう書いている。「子供の教育において第一になすべきことは、道徳を教えることではなく、人生が楽しいということをつまり自己の生が根源において肯定されるべきものであることを、体に覚え込ませてやることである」と(『これがニーチェだ』)。あるいは、幼児期に不幸な体験があったとして、③それに代わるものを、それに耐えられるだけの力を、学校はあたえうるのでなければその存在理由はない。だれかの子として認められなかった子どもに、その子を「だれか」として全的に肯定することで、存在理由をあたえうるのでなければ、④その存在の意味がない。【イ】

- 【五】 近代社会では、ひとは他人との関係の結び方を、まずは家庭と学校という二つの場所で学ぶ。養育・教育というのは、共同生活のルールを教えることではある。が、ほんとうに重要なのは、ルールそのものではなくて、(Ⅰ)ルールがなりたつための^c前提がなんであるかを理解させることであろう。社会において規則がなりたつのは、相手も同じ規則に従うだろうという相互の期待や信頼がなりたつていきただけである。【ウ】

- 【六】 幼稚園でのお歌とお遊戯、学校での給食。みなでいっしょに身体を使い、動かすことで、他人の身体に起こっていること、(Ⅱ)、直接に知覚できないことを生き生きと感ずる練習を、わたしたちはくりかえしてきた。身体に想像力を備わせることで、他人を思いやる気持ちをつまりは⑤共存の条件となるものを、育んできたのである。

- 【七】 さて家庭では、ひとは、〈信頼〉のさらにその基盤となるものを学ぶ。というより、からだで深く憶える。〈親密さ〉という感情である。
- 【八】 家庭という場所、そこでひとはいわば無条件で他人の世話をうける。言うことを聞いたからとか、おりこうさんにしたらかいった理由や条件なしに、自分がただここにいるという、ただそういう理由だけで世話をしてもらった経験がたいていのひとはある。こぼしたミルクを拭ってもらい、便で汚れた肛門をふいてもらい、あごや脇の下、指や脚のあいだを^dタンネンに洗ってもらった経験……。そういう「^{IV}」を、いかなる条件や留保もつけずにしてもらった経験が、将来自分がどれほど他人を憎むことになるうとも、最後のぎりぎりのところでひとへの〈信頼〉を失わないでいさせてくれる。そういう人生への肯定感情がなければ、ひとは苦しみが堆積するなかで、最終的に、死なないでいる理由をもちえないだろうと思われる。【エ】

- 【九】 あるいは、生きることのプライドを、追いつめられたぎりぎりのところでもてるかどうかは、自分が無条件に肯定された経験をもっているかどうか、わたしがわたしであるというだけでぜんぶ認められ世話されたことがあるかどうかにかかっていると言い換えてもいい。その経験があれば、母がじぶんを生んでしばらくして死んでも耐えられる。⑥こういう経験がないと、一生どこか欠乏感をもってしか生きられない。(Ⅲ)、じぶんが親や他人にとって^e邪魔な存在ではないのかという疑いをいつも払拭できない。つまりじぶんを、存在する価値のあるものとして認めることが最後のところできないのである。

- 【十】 逆にこういう経験があれば、他人もまたじぶんと同じ「一」として存在すべきものとして尊敬できる。かわいがられる経験。まさぐられ、あそばれ、いたわられる経験。人間の尊厳とは、最終的にそういう経験を幼いときにもてたかどうかにかかっているとは言えないだろうか。

(語注) 遊戯……幼稚園などで行う集団的な遊びや踊り。

根源……物事の一番もとになっているもの。

観念……物事に対する考え。

欠乏……不足すること。

倫理……人として守り行すべき道。

ニーチェ……ドイツの哲学者。(一八四四～一九〇〇)

堆積……積み重ねること。

尊厳……尊くおごそかなこと。

(鷺田清一『悲鳴をあげる身体』)

問一 傍線部 a の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 波線部「どうして学校に上がるとお歌とお遊戯が授業から外されるんだろう」を文節に分けた場合、何文節となるか。漢数字で答えなさい。

問三 文中の（Ⅰ）（Ⅲ）に当てはまる言葉として適当なものを次の（ア）（カ）よりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- （ア）しかし （イ）あるいは （ウ）むしろ （エ）つまり （オ）たとえば （カ）そして

問四 傍線部①「そういう作業」とはどのようなことか。本文中より二十五字で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問五 傍線部②「人生への肯定」を筆者は具体的にどのようなものかと考えているか。適当なものを次の（ア）（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

- （ア）じぶんの人生の生きる目標を、家庭や学校生活から見つけたすこと。
（イ）生きることを楽しいと感じ、自己の人生が根源的に肯定されること。
（ウ）学校の授業でお歌やお遊戯がなくなったとしても、納得をすること。
（エ）死への恐れが働いたときも、じぶんの生きる理由を見つけたすこと。

問六 傍線部③「それ」が指しているものを本文中より五字で抜き出しなさい。

問七 傍線部④「その」が指しているものを本文中より漢字二字で抜き出しなさい。

問八 次の一文を入れるのに適当な箇所を本文中の【ア】（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

《他人へのそういう根源的な〈信頼〉がどこかで成立していないと、社会は観念だけの不安定なものになる。》

問九 傍線部⑤「共存の条件となるもの」とは何か。適当なものを次の（ア）（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

- （ア）幼児期に自身の身に起こった不幸な体験を他者に伝えることで、自分を肯定すること。
（イ）家庭にて他人からの世話をうけるときに、必ず理由や条件といったものをつけること。
（ウ）家庭や学校での生活を通じて、他人との関係の結び方や共同生活のルールを学ぶこと。
（エ）お互いが期待や信頼を持って一緒に過ごすことで、他人を思いやる気持ちを育むこと。

問十 空欄Ⅳに入る語句として適当なものを次の（ア）（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

- （ア）存在の否定
（イ）存在の世話
（ウ）存在の理解
（エ）存在の価値

問十一 傍線部⑥「こういう経験」とはどのような経験か。九段落中より、十五字以内で抜き出しなさい。

問十二 本文の内容と合致する説明として適当なものを次の（ア）（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

- （ア）幼稚園でのお歌やお遊戯の意義は、幼いころから社会における共同生活のルールを覚えさせることにある。
（イ）自分が生きるに値するかを認識するには、死ぬことへの恐怖を取り除くことから始めることが大切である。
（ウ）学校生活の役割とは、他者から世話をされることを経験することで信頼というものを学ばせるためにある。
（エ）家庭生活の役割とは、信頼の基盤である親密さを感じさせ、生きることへのプライドを与えることである。

二 次の文章を読んで後の問一～問九に答えなさい。

心なしと見ゆる者も、^①よき一言はいふものなり。

あるあらえびすの恐ろしげなるが、かたへにあひて、^②「御子はおはすや」と問ひしに、「一人も持ち侍らず」と答へしかば、「さては、もののあはれは知り給はじ、情けなき御心にぞものし給ふらむと、いと恐ろし。子ゆゑにこそ、よろづのあはれは思ひ知らるれ」と言ひたりし、^③さもありぬべきことなり。恩愛の道ならでは、かかる者の心に慈悲ありなんや。^A孝養の心なき者も、子持ちてこそ、親の心ざしは思ひ知るなれ。

世を捨てたる人の、よろづにするすみなるが、なべて^④ほだし多かる人の、^Bよろづにへつらひ、望み深きを見て、むげに思ひくたすはひがことなり。その人の心になりて思へば、まことになしからむ親のため、妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。されば、盗人をいましめ、ひがことをのみ罪せむよりは、世の人の飢ゑず、寒からぬやうに、世をば行はまほしきなり。人、恒の産なき時は、恒の心なし。人、きはまりて盗みす。世治まらずして、どうたいの苦しみあらば、とがの者絶ゆべからず。人を苦しめ、法を犯さしめて、それを罪なはんこと、不便のわざなり。

さて、^⑤いかがして人を恵むべきとならば、上のおごり費やすところをやめ、民を撫で農を勧めば、下に利あらむこと、疑ひあるべからず。衣食よのつねなる上にひがことせん人をぞ、まことの盗人とはいふべき。

（兼好法師 『徒然草 一四二段』）

（語注）

あらえびす・・・荒々しい東国の武者

かたへ・・・かたわらの人

御子はおはすや・・・こどもはいらっしゃいますか

もののあはれ・・・しみじみとした情愛 情けなき御心・・・人情味のない心

よろづのあはれ・・・すべての情愛 さもありぬべきことなり・・・きつとそうであるに違いないことである。

恩愛の道・・・親子の愛情の道 孝養の心なき者・・・孝行の心のない者

世を捨てたる人の、よろづにするすみなる・・・世を捨て出家した一人で、家族や財産が全くない人

なべて・・・一般 ほだし・・・自由な行動を縛るもの

ひがこと・・・間違つたこと、悪いこと 世をば行はまほしきなり・・・世の中を治めてほしいものである

どうたいの苦しみ・・・寒さの苦しみと飢えの苦しみ

とがの者・・・罪人 不便のわざなり・・・気の毒なことである

衣食よのつねなる・・・衣食が足りている

問一 傍線部①「よき一言」の表現として最も適切な一文を本文から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問二 傍線部②「御子はおはすや」と聞いたのは誰か。適当なものを次の（ア）～（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）あるあらえびす （イ）かたへ （ウ）世の人 （エ）民

問三 傍線部③「さもありぬべきことなり。」と考えたのは誰か。適当なものを次の（ア）～（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）あるあらえびす （イ）かたへ （ウ）盗人 （エ）作者

問四 傍線部④「ほだし」について、本文での具体例として適当なものを次の（ア）～（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）お金 （イ）衣食 （ウ）農業 （エ）親や妻子

問五 傍線部⑤「いかがして人を恵むべき」について作者の考えが具体的に記されている箇所を本文から三十五字以内で抜き出し、最初の五字で答えなさい。

問六 傍線部A「孝養の心なき者も、子持ちてこそ、親の心ざしは思ひ知るなれ」では、文中の「こそ」という助詞によつて文末の語形が変化している。これを何の法則というか。解答欄に合うように四字で答えなさい。

問七 傍線部B「よろづにへつらひ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問八 本文の内容と合致するものとして適当なものを次の（ア）～（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）人間の愛情の深さは、子どもがいるかないかとは全く無関係である。
（イ）世間の人々が、飢えや寒さから身を守るような政治をすべきである。
（ウ）人が盗みをしてしまうのは、本人の心や意志に弱さがあるからである。
（エ）家族をもたず、他人の衣食をだまし取る者こそが、本当の悪人である。

問九 『徒然草』と同じ随筆の作品として適当なものを次の（ア）～（エ）より一つ選び、記号で答えなさい。

（ア）『方丈記』 （イ）『平家物語』 （ウ）『土佐日記』 （エ）『おくのほそ道』

三 慣用表現や故事成語に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の（ ）に身体の一部を表す漢字一字を入れ、慣用表現を完成させなさい。

- ① 本当に（ ）が焼ける子どもだ。
- ② 部下に（ ）を引つ張られて失敗をした。
- ③ いつかライバルの（ ）をあかしてやる。
- ④ 彼の最近の態度は（ ）に余る。
- ⑤ 合格して（ ）をなでおろした。

問二 次の①～⑤の傍線部をつけた故事成語の使い方が正しいものには○、間違っているものには×をつけなさい。

- ① 僕と弟は呉越同舟のとても仲の良い兄弟だ。
- ② 納得がいくまで推敲を重ねた作文を提出する。
- ③ 彼の発言と行動には矛盾が多い。
- ④ 彼の心配は杞憂に終わった。
- ⑤ 君が書いた文章の最後の一文は蛇足だ。

四 文法に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の（ア）～（エ）の傍線部の中で、他とは品詞・意味・用法が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ① （ア）観光客に道をたずねられる。
- （イ）声が裏返つて、友人に笑われる。
- （ウ）先生がこちらに来られる。
- （エ）虫に食べられた葉っぱ。
- ② （ア）私の趣味はプールで泳ぐことです。
- （イ）海外の海で釣りを楽しむ。
- （ウ）救急車の音が遠ざかつていく。
- （エ）彼の描いた絵はすばらしい。
- ③ （ア）自分が読まない本を友人に貸す。
- （イ）慌てないように準備を行う。
- （ウ）まだ美容院には行かない。
- （エ）この道路はとても危ない。

問二 次の傍線部の敬語の種類を（ア）～（ウ）よりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。（同じ記号を何度選んでもよい）

- ① 先生がお聞きになる。
- ② 必要な写真はそちらでございます。
- ③ 彼にお礼を申し上げた。
- ④ 先輩が状況を説明してください。
- ⑤ 私の両親がそちらに参ります。

（ア）尊敬語 （イ）謙譲語 （ウ）丁寧語

問題は以上です。

解 答 用 紙

国					語				
問題番号		答の欄		採点欄	問題番号		答の欄		採点欄
一	問一	a	軽視	2	二	問五	上のおごり	2	
		b	著作	2		問六	係り結びの法則	2	
		c	ぜんてい	2		問七	よろずにへつらい	2	
		d	丹念	2		問八	ア イ ウ エ	2	
		e	じゃま	2		問九	ア イ ウ エ	2	
	問二	(七)文節		2	三	問一	①	手	2
	問三	I	ア イ ウ エ オ カ	2			②	足	2
		II	ア イ ウ エ オ カ	2			③	鼻	2
		III	ア イ ウ エ オ カ	2			④	目	2
	問四	他人の身体		3			⑤	胸	2
	問五	ア イ ウ エ		3		問二	①	×	2
	問六	不幸な体験		3			②	○	2
	問七	学校		3			③	○	2
	問八	ア イ ウ エ		3			④	○	2
	問九	ア イ ウ エ		3			⑤	○	2
	問十	ア イ ウ エ		3	四	問一	①	ア イ ウ エ	2
	問十一	自分が無条件に肯定された経験		3			②	ア イ ウ エ	2
							③	ア イ ウ エ	2
		問十二	ア イ ウ エ			3	問二	①	ア イ ウ
	二	問一	子ゆゑにこ			3		②	ア イ ウ
問二		ア イ ウ エ		2		③		ア イ ウ	2
問三		ア イ ウ エ		2		④		ア イ ウ	2
問四		ア イ ウ エ		2	⑤	ア イ ウ		2	

受験 番号		名前	模範解答	得点	
----------	--	----	------	----	--